

調査者	岡本 祥吾
情報ソースの刊行日	2020年4月10日
情報ソースの調査日	2020年5月14日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年5月16日
日本語タイトル	COVID-19 と身体的距離のメンタルヘルスの結果 予防と早期介入の必要性
情報ソース	JAMA Network
情報のカテゴリー	パンデミック、社会的孤独、虐待、メンタルヘルスケア
発信地域	アメリカ
DOI	10.1001 / jamainternmed.2020.1562
URL	https://jamanetwork.com/journals/jamainternalmedicine/fullarticle/2764404
要約	<ul style="list-style-type: none"> ・ Covid-19 パンデミックにより世界各地で社会的距離実践し、通常の日常的な機能が停止し、これに関連して不安と抑うつ、薬物使用、孤独感および家庭内暴力が大幅に増加する可能性があるとされている。 ・ 児童に至っては、学校の閉鎖による児童虐待が蔓延する可能性が非常に高くなる。 ・ 上記のような経緯から英国より心理的応急処置ガイダンスが発行され、精神的後遺症の増加に対し積極的に備える（3ステップ-①物理的や社会的な孤独と続発症の不可避を計画②家庭内暴力や児童虐待に関するメカニズムを整える③パンデミックによって不可避に備えて、システムの強化）。 ・ 精神的及び行動的疾患を緩和するため、物理的距離は制限があっても社会的距離を埋めることが大事（オンラインアクティビティ、電子メールの使用が優れている）。 ・ 予防な焦点をあてたメンタルヘルスケアに対する新しい方法を提供していくことが必要であるとされている。
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的孤独に対するメンタルヘルスケアへの介入として、予防的に理学療法士が介入できる部分がある。今後遠隔医療に応じて対応していくことが望まれる。